2026年11月20日

令和８年熊本地震 氷川町における PCAT 活動報告

（2026年７月31日～11月１日の活動と2027年１月末までの計画）

日本プライマリ・ケア連合学会 災害支援チーム（PCAT）
熊本地震災害支援プロジェクト リーダー　原田 奈穂子
災害医療システム委員会 委員長（同プロジェクト サブリーダー）　香田 将英

1. 要旨

PCATは、７月31日からの先遣調査を経て、８月４日から11月１日まで熊本県氷川町に１週間交代で２名ずつ派遣し、八代地域保健医療福祉調整現地本部 氷川町支所の指揮下で活動した。常駐派遣は13班・延べ26名（実人数23名、延べ178人日）で、先遣調査を含めた住民支援の実績は実人数25名・延べ185人日（うち９月27日まで115人日、９月28日～11月１日70人日）となった。住民への健康相談には11月１日までに延べ174件対応した。町職員等への支援者支援では、町職員105名の個別面談を行い、災害鍼灸マッサージプロジェクト（延べ517名）、柔道整復師（10名）の活動を調整した。県内の訪問看護ステーションに対しては、KISA2隊と共同で、訪問看護師の周辺業務を補助する支援の枠組みを連絡協議会と整備した。10月20日には、PCATの住民支援活動が災害救助法による救助として認められた。10月末までに見守りが必要な方を町保健師、地域包括支援センター、地域支え合いセンターへ引き継ぎ、11月１日に現地での常駐活動を終えた。今後は氷川町とDMAT事務局の要望を受け、11月中旬から2027年１月末まで、週１回（実働３日間、原則１名）の継続派遣と月１回の町職員フォローアップ面談を行う。

2. 経緯

・7月31日～8月2日：先遣調査（医師３名）を行い、熊本県、八代保健所、氷川町と支援内容を協議した。8月2日に氷川町健康センターへ活動拠点を開設した。

・8月7日：DMAT事務局、DMATコーディネーター、八代保健所長、氷川町福祉課との協議を経て、八代地域保健医療福祉調整現地本部の氷川町支所が正式に設置され、PCATはその運営に加わった。8月8日から23日までは熊本県保健医療福祉調整本部にリエゾンを置いた。

・8月10日：PCATから氷川町長へ活動を提案し、同日付で氷川町長から前野理事長あてに受諾の回答（氷総第1164号「住民・行政関連職員への保健医療支援活動の提供について（回答）」）を得た。

・8月24日：日本医療ソーシャルワーカー協会（日本MSW協会）との協働を開始した（9月30日まで）。

・9月25日：第24回（最終回）八代地域保健医療福祉調整現地本部会議で、各団体の引継ぎと当面の課題を共有した。9月27日に災害救助法による医療救護が終了した。

・10月1日：町社会福祉協議会が受託する地域支え合いセンターが開所した。10月4日から新村仮設住宅、10月26日から吉本仮設住宅（第２期）への入居が始まった。

・10月7日～15日：町職員の個別面談（２回目、66名）を行った。

・10月20日：PCATの住民支援活動が、氷川町の要請に基づく応急救助として災害救助法による救助と認められた。

・10月21日：氷川町から、在宅で暮らす方への支援を続けてほしいとの要望を受けた。

・10月31日：地域支え合いセンターへ見守りを要する世帯の申し送りを行い、氷川町健康センターの活動拠点を明け渡した。

・11月1日：現地での常駐活動を終了した。

・11月15日～19日：週１回・実働３日間（原則１名）の継続派遣を開始した（現地活動16日～18日）。



写真１　氷川町支所の設置に向けた協議（８月）

3. 派遣体制（7 月 30 日～11 月 1 日）

派遣は、本会本部と災害医療システム委員会のもと、熊本地震災害支援プロジェクト（リーダー：原田奈穂子、サブリーダー：香田将英）が調整した（図 1）。現地では氷川町支所の指揮下で、町職員等の支援者支援と在宅支援を担当した（図 2）。先遣調査を除く常駐派遣は 13 班・延べ 26 名（実人数 23 名：医師 13 名、看護師 3 名、診療看護師 3 名、薬剤師 4 名）、延べ 178 人日であった。先遣調査（7 人日）を含めた 7 月 30 日～11 月 1 日の住民支援実績は、実人数 25 名（医師 15 名、看護師 3 名、診療看護師 3 名、薬剤師 4 名）、延べ 185 人日（うち 9 月 27 日まで 115 人日、9 月 28 日～11 月 1 日 70 人日）となる。ほかに、熊本県保健医療福祉調整本部へのリエゾン 4 名と、町職員面談のための本部派遣 2 名（9 月・10 月）が活動した。

班	期間（移動日を含む）	派遣者（職種）
先遣調査	7 月 30 日～8 月 3 日	香田将英（医師：3 日）、吉田伸（医師：3 日）、髙柳宏史（医師：1 日）
第 1 班	8 月 4 日～9 日	香田将英（医師）、本村和久（医師）
第 2 班	8 月 9 日～16 日	香田将英（医師）、本田和也（診療看護師）
第 3 班	8 月 16 日～23 日	杉本雪乃（医師）、柴山剛（看護師）
第 4 班	8 月 23 日～30 日	國光克知（医師）、吉田茜（看護師）
第 5 班	8 月 30 日～9 月 6 日	川島篤志（医師）、中山法子（診療看護師）
第 6 班	9 月 6 日～13 日	竹内あずさ（薬剤師）、向井拓也（診療看護師）
第 7 班	9 月 13 日～20 日	茂野綾美（医師）、敦賀弘道（医師）
第 8 班	9 月 20 日～27 日	岩下演久（医師）、和田嵩平（医師）
第 9 班	9 月 27 日～10 月 4 日	宮嶋玲人（医師）、松田宗之（薬剤師）
第 10 班	10 月 4 日～11 日	茂野綾美（医師）、土岐玲子（薬剤師）
第 11 班	10 月 11 日～18 日	内堀善有（医師）、常石大輝（医師）
第 12 班	10 月 18 日～25 日	茂野綾美（医師）、椎名美貴（看護師）
第 13 班	10 月 25 日～11 月 1 日	根本清正（医師）、大澤千恵（薬剤師）
県調整本部リエゾン	8 月 7 日～23 日	井上淑恵、髙柳宏史、隅田英憲、宮嶋玲人（いずれも医師）
町職員面談（本部派遣）	9 月 8 日～11 日 10 月 7 日～9 日、14・15 日	香田将英（医師）、原田奈穂子（看護師）

※現地活動人日は、移動のみの日を除いて集計した（先遣調査 7 人日、第 1 班 10 人日、第 2～13 班各 14 人日、計 185 人日。11 月 19 日に氷川町福祉課へ提出した一覧に基づく）。先遣調査の 7 月 31 日（3 名）は熊本県庁・八代保健所での協議、氷川町内での活動は 8 月 1 日から。県調整本部リエゾンと町職員面談は住民支援の人日に含めていない。

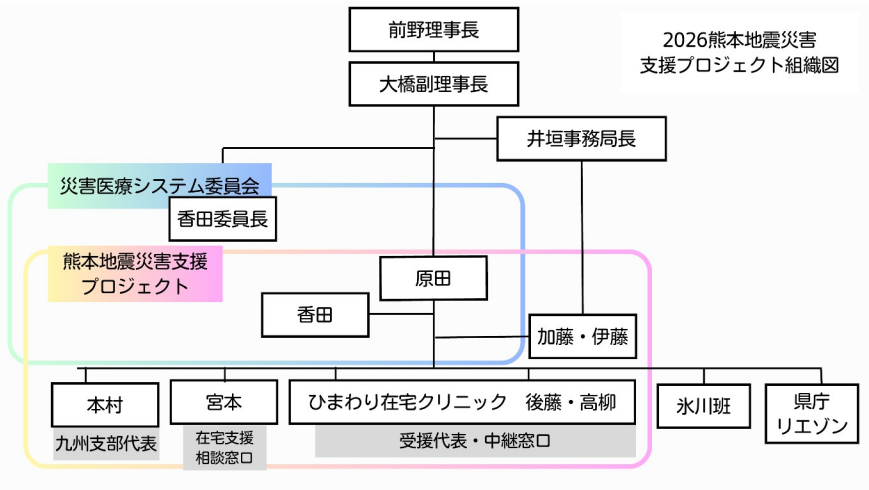


図１　熊本地震災害支援プロジェクト組織図（8 月 16 日時点）

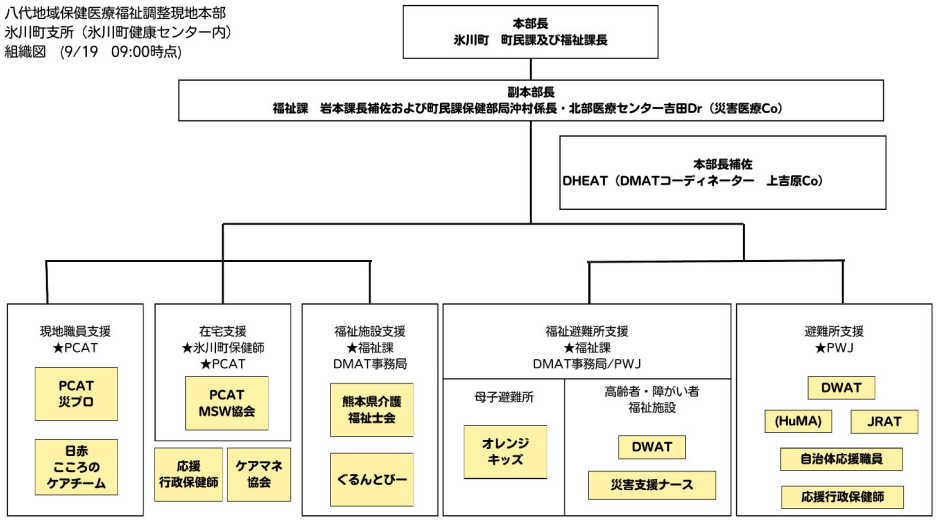


図２　八代地域保健医療福祉調整現地本部 氷川町支所 組織図（9 月 19 日時点）

4. 活動内容と実績（7 月 31 日～11 月 1 日）

町長への提案に基づき、①避難所・福祉避難所と在宅の住民への健康相談、②在宅医療・介護ニーズの把握と多団体の調整、③町職員等の支援者支援の 3 方針で活動した。活動の重心は、氷川町支所での健康相談窓口の設置から、町の全戸訪問に続く二巡目の訪問、日本 MSW 協会との合同訪問、地域包括支援センターとの協働、住まいの支援を要する世帯の抽出へと移り、10 月は仮設住宅へ移る方の見守りと地域の支援機関への引継ぎが中心となった。

(1)住民への健康相談

・8 月 2 日から 11 月 1 日まで、住民への健康相談（在宅生活に関する訪問・電話等）に延べ 174 件対応した。内訳は、8 月が 71 件（訪問 57 件、電話等 14 件）、9 月が 43 件（訪問 30 件、電話等 9 件、入院後の継続対応 4 件）、10 月が 60 件（訪問 46 件、電話等 4 件、受診や入所への同行等 7 件、家族からの聴き取り 3 件）である。10 月はこのほか、関係機関との調整のみを行った相談に 30 件対応した。

・相談内容は、8 月中旬には身体の症状や住まい・生活環境が半数以上を占めたが、9 月中旬以降は介護・認知機能に関わる相談と、受診・入退院・入所の調整が増えた。こころの健康に関する相談は全期間を通じて約 3 割で推移し、多くは住まいの被害や家族の介護、受診の移動手段など、生活上の複数の課題が重なっていた。



写真２　健康相談受付の掲示（８月）

（２）在宅医療・介護ニーズの把握と多団体の調整

・町保健師、地域包括支援センター、日本 MSW 協会と協働し、受診・入退院・介護保険の申請や施設入所の調整を行った。

・DMAT 事務局の依頼に基づき日本 MSW 協会と協働して住まいの支援を要する在宅世帯（高齢者世帯・障がい者世帯等）を抽出し、42 世帯を優先度別に整理して、町が支援の優先順位を付ける際の資料として共有した。

・9 月 28 日の氷川町保健医療福祉調整会議の合意に基づき、応援保健師チームが見守ってきた 17 名を PCAT が引き受け、10 月 20 日までに経過確認を終えて町保健師へ報告した。10 月は仮設住宅へ入居した方への訪問と生活状況の確認、毛布等の配布支援も行った。



写真３　活動拠点での日本 MSW 協会との情報共有（９月）

（３）町職員等の支援者支援

・町職員の個別面談を９月９日・10 日（39 名）と 10 月７日～15 日（66 名）に実施し、計 105 名と面談した。10 月の面談は地元の心理職とともに行った。

・柔道整復師が８月７日～９日に計 10 名を施術した。災害鍼灸マッサージプロジェクトによる施術は、８月 10 日から 11 月１日までに計 44 日実施し、延べ 517 名（８月 151 名、９月 178 名、10 月 181 名、11 月１日７名）となった。PCAT は同プロジェクトと会場や時間帯を調整し、職員が勤務時間内と終業後に利用できるようにした。９月 19 日からは職員と住民の会場を分け、竜翔センターを住民向けの会場とした。９月 30 日からは地元の施術者２名も加わり、活動終了時には地元の鍼灸・マッサージ院の案内を職員へ配布した。

・日本赤十字社こころのケア班が９月 30 日で活動を終えた後は、町職員のこころの健康に関する相談を PCAT が受け、災害鍼灸マッサージプロジェクトとともに対応した。



写真４　活動拠点での記録の整理（８月）

（4）訪問看護ステーションへの支援の調整

・熊本県内の訪問看護ステーションを対象に、PCAT と KISA2 隊が共同で、訪問看護師の周辺業務を補助する支援の枠組みを熊本県訪問看護ステーション連絡協議会と調整した。熊本県医師会と熊本県看護協会の理解を得て、同連絡協議会と PCAT・KISA2 隊の協働事業として進めた。

・本支援は地元の訪問看護を代替するものではなく、事業所の依頼に応じて、電話対応、事務所の片付け、運転など報酬が発生しない周辺業務を補助する枠組みである（図３）。９月 27 日に同連絡協議会を通じて会員事業所へ案内した。今回の活動では枠組みの整備までを行い、10 月末までに事業所からの依頼はなかった。

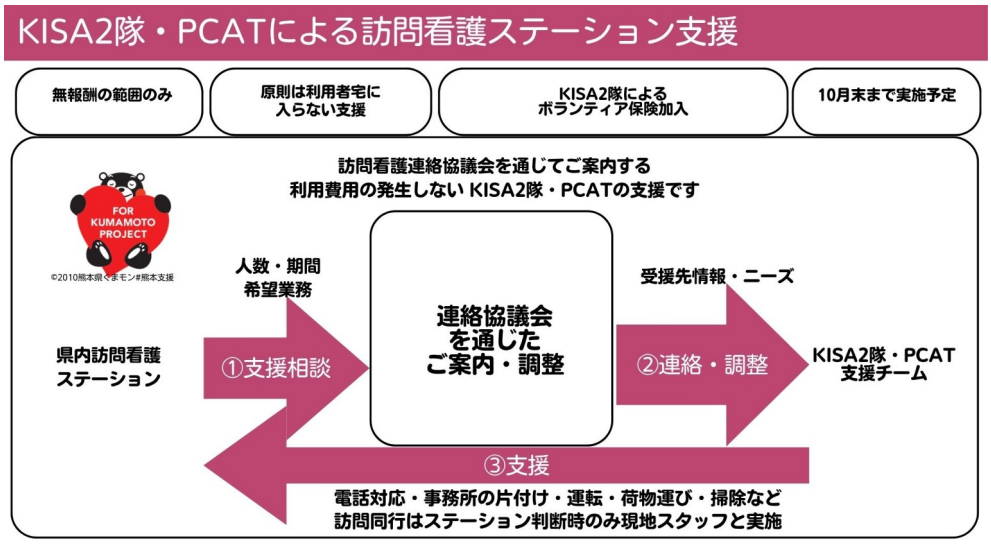


図３　訪問看護ステーション支援の枠組み

（熊本県訪問看護ステーション連絡協議会を通じて会員事業所へ配布）

（5）引継ぎと常駐活動の終了

・地域支え合いセンター：10 月 31 日、町保健師の同席のもと、吉本仮設住宅の新規入居世帯を含む見守りを要する 15 世帯を申し送った。

・町保健師・地域包括支援センター：応援保健師チームから引き受けた 17 名の経過確認を報告したほか、継続して見守りを要する方を町保健師と地域包括支援センターへ引き継いだ。

・町職員のこころのケア：面談結果の概要を町総務課へ伝え、町の産業保健体制、熊本県こころのケアセンター、地元の心理職へつなぐ方向で協議した。

・活動拠点：10 月 31 日に氷川町健康センターの拠点を明け渡し、11 月１日に物品を移して常駐活動を終了した。

5. 氷川町における現在の課題

・相談内容は、身体症状や住環境から、介護・認知機能、受診・入退院・入所の調整、生活の相談へと移っている。これらは地域包括支援センターとケアマネジャーの業務に直結し、介護保険の新規申請増も重なり、地域の専門職へ負担が集中している。

・損壊した自宅に住み続ける方や、仮設住宅へ移った高齢者の見守りは、地域支え合いセンター、町保健師、地域包括支援センターの３者で分担して進めている。地域支え合いセンターは住民の聞き取りを始めているものの、介護サービスなど地域の資源へつなぐ経験はまだ浅く、町が構築している情報共有システムへの移行を含め、関係機関どうしの情報共有の仕組みづくりが課題になっている。

・こころの健康に関する相談は、住民・町職員ともに中長期的な関わりが必要である。町の産業保健体制、熊本県こころのケアセンター、地元の心理職へ無理なく引き継いでいく必要がある。

6. 2026 年 11 月～2027 年１月末の活動計画

氷川町と DMAT 事務局からの要望を受け、2026 年 11 月中旬から 2027 年１月末まで、頻度を落として支援を続ける。派遣は、年末年始を除き週１回・実働３日間（基本は月～水、前日移動）、原則１名で計９回（11 月 15 日～2027 年１月 27 日、１月 25 日～27 日を最終活動日とする見込み）を予定しており、11 月 15 日～19 日に第１回を実施した。プロジェクトリーダー（原田奈穂子）、災害医療システム委員会委員長（香田将英）、ロジスティクス担当の体制はこれまでどおり続ける。

・在宅で暮らす方への支援と関係機関との調整：地域包括支援センター、町福祉課、地域支え合いセンターと協働し、受診・退院・施設入所・介護保険申請の調整や、住まいの支援が必要な世帯のフォローを行う。町の災害対策本部会議や関係機関の情報交換会にも出席し、町が構築している情報共有システムへの移行など、情報共有の仕組みづくりを手伝う。

・町職員のこころのケア（フォローアップ面談と引継ぎ）：11 月 24 日～26 日にフォローアップ面談と副町長への結果報告を行う。12 月・1 月も月１回訪問し、町産業医、熊本県こころのケアセンター、地元の心理職へ引き継いでいく。

7. 謝辞

氷川町、八代保健所、熊本県をはじめ、現地で協働いただいている関係機関・支援団体の皆様、災害鍼灸マッサージプロジェクトの皆様、隊員を送り出していただいた所属先の皆様、活動を支えていただいている会員の皆様に深く感謝申し上げます。

以上

参考：学会ウェブサイトでの報告

・令和８年熊本地震に関するお知らせ
https://www.primarycare-japan.com/news-detail.php?nid=1825

・令和８年熊本地震における PCAT の活動について（8 月 10 日現在）
https://www.primarycare-japan.com/news-detail.php?nid=1840

・令和８年熊本地震における PCAT の活動について（8 月 12 日）
https://www.primarycare-japan.com/news-detail.php?nid=1842

・令和８年熊本地震における PCAT の活動について（9 月 14 日現在）
https://www.primarycare-japan.com/news-detail.php?nid=1878